

若者の雇用・労働をめぐる問題

「フリーター」「ニート」という言葉をマスコミで見聞きしないことはない、というほど、若者の雇用（労働）に社会的な関心が集まっています。しかしながらそこでの議論は、いまの若者の職業意識がいかに低いかを嘆くものであり、かつ、打ち出されている対策の中身は、そういった若者の「鍛え直し」とでもいえるようなものに傾斜しがちです。しかしながら若者の雇用・労働をめぐる問題は実際には多様です。正規雇用で働く若者を中心に長時間労働・過重な労働負担が深刻化しています。非正規雇用など不安定な雇用での就労を余儀なくされる若者が増大しています。かつてのような企業主導の人材育成が縮小し、即戦力が期待される中で、なかなか就職の決まらない若者も増えています。かくのごとく、若者の直面している問題は、「フリーター」「ニート」議論にとどまるものではありません（そもそも私たちはこの呼称にも疑問をもっています）。私たちはそういう問題意識にもとづき、札幌のヤングハローワークで求職者の方々に調査を行い、その成果を、2005年に12月に中央大学で開催された「第52回 日本学生経済ゼミナール」で報告してきました。

初遠征・東京入り

「第52回 日本学生経済ゼミナール」大会は中央大学での開催でした。わがゼミ初の遠征・東京入りです。この大会への参加は初めてだったので、いろいろすったもんだもありました。せっかくの夏休みの調査活動にはじまり、大会前日までの必死のまとめ作業。作業の進捗は必ずしも順調とは言えず、どうまとめたらよいのか悩み、論旨が一貫していない報告書の内容について喧々諤々と議論し、学生間の衝突、あるいは学生と私の衝突もありました。しかしながらそれだけの経験を重ねたこともあり、当日の内容はたいへんよかった、の一言に尽きます。では、ゼミ遠征・大会の状況を報告することにしましょう。



論点、書き書きの図



他校ゼミ（中央大学、高崎経済大学）との初顔合わせ

みっちり討論

大会スケジュールは、午前に講演会が開催され、お昼をはさんで、13時から18時までの5時間におよぶ討論という流れでした。わがゼミは、中央大学と高崎経済大学と若者の雇用・労働について議論することになっています。事前にやりとりもしています。大会当日は、まずは1ゼミにつき20分で簡単な報告をし、簡単な質問を受けて、休憩をはさんだ後は、次の点について議論することになりました。第一にNEETとフリーターの違い、第二にNEET対策について、です。ところがこの論点・議論の内容はわがゼミにとっては、「想定外」なものでした。

想定外！な論点

そもそもわがゼミの問題意識は、今日の若者の雇用・労働をめぐる問題状況が「フリーター」「ニート」議論に矮小化されることへの強い疑問だったわけです。ですから、当日の報告の内容についても、（小規模とはいえ）実態調査の結果にもとづいて、若者の直面する問題を多面的に報告したわけです。ところが論点は先述のとおりになってしまいました。この点はわがゼミにとっては文字通り想定外だったので、その後の議論もなんだかみあわないものとなりました。

「フリーター」と「ニート」の重なり

まず、第一の論点についてかなりの時間が費やされてしまいました。しかし、「フリーター」と「ニート」の違いというのはじつは明確ではなく、両者は重なる部分が大なのです。しかも一人の若者が、あるときは「ニート」の状態、あるときは「フリーター」の状態になっていることがあるわけです。こうした、移行過程で若者が「行ったり来たり」を繰り返しているようすを「ヨーヨー」にたとえる議論もあります。概念を可能な限り明快にすることはもちろん重要ですが、あまりこだわりすぎるのは得策ではない、そう叫びたい気持ちをぐっと我慢して私は後方でオブザーバーとして参加していました。

「ニート」対策？

ようやく、助言講師の先生が私と同じ思いを助言してくださって、とりあえず第一の論点は終了し、議論は第二の論点である「ニート対策」へ。しかしながらわがゼミでは、若年層の雇用・労働をめぐる問題について可能な限りトータルに把握して対策を考える、という姿勢でのぞんだので、他校との議論はじゃっかんかみあいませんでした。他校ゼミからは、「やはり教育の領域が重要ではないか」「子どものころから仕事・働くことについて考える機会を与えることが大事」等々の意見がだされました。



おいおい、なんて答えるのよ

それに対してわがゼミの提起した政策課題は、「労働時間規制」「ワークシェアリング」「同一労働同一賃金原則の導入」「最低賃金制度の改善」「職業能力形成と資格」の五点です。どうですか、ぜんぜんかみ合わないでしょう。

私たちの考え

もちろん私たちがこれらの対策を提示したのは、若者が直面している問題をふまえてのことです。高い失業率の一方で、職場ではフルタイム労働者を中心に長時間労働が蔓延しているという現状があります。その是正のためには、とが必要なわけです。そして、ワークシェアといっても、差別的な処遇の非正規雇用を増大させるようなワークシェアでは問題なわけであり、そのためにもの原則が遵守されねばなりません。その成功例として、オランダモデルの経験をまとめました（もちろん、このオランダの経験にも限界・問題点はあるのですが、雇用形態があたかも身分のように扱われているわが国ではオランダの経験から学ぶものは大といえるでしょう）。さらに、非正規雇用の増大が避け難いならば、非正規雇用を選択しても暮らしていける賃金水準が必要なわけであり、そのためには、すなわち現行では生活保護基準よりも水準の低い最賃制度の改善が欠かせません。そして最後に、すなわち若年層の職業能力形成あるいは資格取得のための公的な条件を整備することは、企業がOJTを中心とする人材育成システムを縮小しつつあるいま、たいへんに急がれる課題なわけであります。



悩むぜ、困るぜ

わがゼミでは、ちっぽけではありますが調査を実施し、分析作業を通じて、以上のような結論にいたり、今回の大会にのぞんだわけであります。ところが、上記のとおり、討論の場では「ニート対策」に話が収斂し、学生はむろんのこと、後ろでオプしている私もいささが消化不良に。

とはいえ、参加して本当によかった

そんなわれらの願いが通じたのが、「助言講師」として参加していた先生から適切なアドバイスがあり、わがゼミの指摘も評価してくださいました（歓喜）。そんな感じで、なんだかんだの討論で夜もふけて、定刻である18時の30分前となり、参加した学生ひとりひとりが感想を述べあうことになりました。後ろでそれを聞きながら、「思い通りにいかない部分もあったとはいえ、やっぱり参加してよかったよなあ」としみじみモードになっていたら、オプにも発言の許可があり、焦りながらも、各ゼミの報告書のすぐれたところを申し述べ、最後に、私の持論でもあり自らへの戒めでもありますが、実証研究をぜひとも大事にしてくださいとのことを述べさせていただきました。

打ち上げ、打ち上げ



えがった、えがった

熱い議論の後は、やはり飲み会です。「いやいや、あの議論の展開はまいったよね」「あの司会は に似てなかった？」なんて感じでわいわいとにぎやかに。私自身は大会当日までの学生らの頑張りに感無量モードに。みんなよく頑張ったな、とひたっていたら、「センセイは私たちのことを褒めない」という思いもかけぬことを学生に指摘され、びっくり。しかしながらたしかに言われてみると、「きみたちのできることはこんなもんじゃない、まだまだできる」という思いが強すぎたためか、あちらこちらでゼミ生を褒めることは結構あったのに、ゼミ生自身に、ストレートに褒め言葉をかけることは少なかったのかもしれないと反省。学生指導に関してよい指摘をもらったかな。

浅草！

翌日は自由行動。といっても、センセイの独断で、ゼミでの団体行動です。単独行動は却下。もう気分は修学旅行で、まずは浅草へ。



先生以外、全員集合！（泣）

若者が集う今風（？）なところは苦手な私にとって浅草はしみじみした感じでよかったです。ゆっくりできました。頭がよくなったかどうかはわかりませんが、煙もしっかりあびました。



やっぱり、せんべいでしょ。いや、煙でしょ（by M）

ただですね、どういうわけか、おみくじをひいたら「凶」がでちゃいまして、こんなん書かれていました。

探し物、見つからず・・・まあ別に探し物していないし、ね。

待ち人、来ず・・・まあ別に待ち人いないし、ね。

健康・病状、悪化、回復せず・・・まあ身体の調子の悪いのは事実だし、ね。

総括：網にからまった魚のようにもがき苦しむことになるでしょう・・・なにもそこまで書かなくとも il||li (||'')il||li

いやはや、その後はおみくじパワー炸裂（？）で、改札で切符がつまるわ、しかもつまっているはずの切符が見つからずに駅員さんに無賃乗車の疑いの目でみられるわで、何かトラブルが起きるたびに「センセイのせいだぁ」と楽しげにはやし立てる声が（けっこう気にしているのに）

がちゃぴん、むっく！

浅草のあとはお台場にあるフジテレビへ。テレビを見る習性のない私にとっては興味ゼロだったので、他のところがよいと駄々をこねましたが、多勢に無勢で学生はみなフジテレビ賛成派。「センセイでも理解可能なサザエさんもいるし」という、よくわからぬ説得で最終的にはフジテレビへ。ちェッ。



つきあってらんねえぜ（by W 島）

とはいえ、いざ行ってみたら、フジテレビ、なかなか楽しいじゃないですか。何事も経験ですね。世間で人気の『電車男』の主人公はなんとかつての「ちびのりだー」の子役であるとか、このふるぼけたピンクのワゴン車は『あいのり』というこれも若者に大人気の番組で使われているものなんですよ（むかしで言うところの『ねるとん』？）などなど、学生から説明を受けて、まめ知識も増えました。がちゃぴん、むっくと写真も撮ってきました。

大会も遊びも最高のゼミ遠征でした、まる